

【12月授業納めあいさつ】

サッカーワールドカップから学ぶこと

校長 渡邊 政 徳

サッカーワールドカップはアルゼンチンチームの36年ぶりの優勝で幕を閉じました。今回の大会では日本チームの活躍が海外からも高く評価されました。ドイツ、スペインといった優勝経験のあるチームに勝利し、グループステージ1位で決勝トーナメントへと駒を進めました。会場はカタールの首都ドーハ。1993年の「ドーハの悲劇」を記憶する者としては、一転「ドーハの歓喜」に変わった瞬間、熱いものがこみ上げてきました。

この大会での日本人選手の活躍には目を見張るものがありました。皆さんはどんなプレーが印象に残っていますか。私は特にスペイン戦での躍動に目を奪われました。日本はスペインに先制を許しましたが、後半3分に堂安選手の強烈なミドルシュートで同点に追いつきました。そして、その僅か3分後、三笥選手が走り込みゴールライン上から折り返したボールを田中選手が押し込んで逆転勝利を収めました。この折り返しボールについては、ゴールラインを割っているのではないかという見方もあり、最終的にVAR（ビデオ・アシスタント・レフェリー）によって検証した結果、ぎりぎりインプレーと判断され、「三笥の1ミリ」という表現がネット上にあふれました。

これらのプレーはいろいろなことを教えてくれます。三笥選手は間に合うかどうかかわらなくても諦めずに全力で走り、クロスボールを上げたことが逆転ゴールを生み出しました。諦めていれば決して得られなかった結果です。もうひとつ気づくことは、準備の大切さです。ダイナミックなシュートを打った堂安選手は試合後「あそこは俺のコースなので」と語りました。多くの練習を重ね、それを得意技にしたことがわかります。パスを出した三笥選手と走り込んだ田中選手の見事な連携は、どれだけ一緒にコンビネーションを高めてきたかを感じさせます。奇跡のように見えるプレーもそこに至る準備が支えています。

スポーツだけではなく科学の世界でもこれまで奇跡のような発見がなされてきました。今我々は感染症に脅かされ、ワクチンに助けられています。このワクチンの予防接種という方法は生化学者・細菌学者であるパスツールによって確立されました。彼は次のような言葉を遺しています。"Chance favors the prepared mind."（チャンスは心の準備が出来ている者を好む）科学の世界でも、苦労を重ね、準備ができていればこそチャンスが訪れることを示しています。

チャンスは必ずやって来ます。しかし、それに気付かず、自分はチャンスに恵まれないと嘆く人もいます。しっかりと準備し、諦めなければ、チャンスと呼び込み、それに気付くこともできます。これから受験を迎える3年生諸君。焦らず、たゆまず勉強を続けてください。きっと「俺のコース」と言える得意技を増やすことができます。そして、試験では最後の「1ミリ」まで諦めずに粘ってください。1、2年生も様々な分野で全国のライバルを意識した努力を重ねるよう望みます。奇跡や偶然と呼ばれていたものがきっと必然の結果だと思えるようになるでしょう。皆さんの preparation と perseverance を期待して今年を締めくくりたいと思います。よい年を迎えてください。